

# オープンキャンパス大盛況

## 本年度第2回 過去2番目1057人参加

本年度第2回オープンキャンパスが20日（日）開かれ、過去2番目に多い1057人の高校生や保護者が詰めかけ、例年にない盛況ぶりを見せました。参加者が1000人を超えるのは、過去最多（1069人）だった令和元年8月以来4年ぶりです。

コロナ禍による人数制限をなくしたことで、7月の第1回も昨年第1回を約200人上回る849人が参加しましたが、今回は事前申し込みの段階から申し込みが殺到。このため、学科説明では、リハビリテーション学科が会場を1教室から2教室に増設したほか、看護学科と医学検査学科の両会場でも急きよ椅子を増やすなどして対応しました。

学内見学ツアーも人前で、3回のツアーはいずれも時間前から定員（50人）を上回る生徒、保護者が集合。ピア・サポーターの学生の案内で、図書館や共通教育センターブースなどを見学して回りました。

今回は、高校1、2年生の参加も多くみられ、猛暑の中、生徒たちはお目当ての学科・専攻や各相談コーナーなどを真剣な表情で回っていました。

（NL編集部）



車椅子バスケットタイムトライアルで車椅子の操作を教わる女子高生たち



超満員となった看護学科の学科説明



ピア・サポーターが案内役を務めたキャンパス見学ツアー

## 駅に近いのが魅力／国験合格率高く志望／きれいで充実した施設

◇マリスト高2年・女子 「将来、医療系の仕事に就きたいと思い訪れました。お目当ては医学検査学科。器具や施設が充実し、キャンパスもきれい。駅に近いのも魅力です」

◇西陵高（長崎県）2年・女子 「理学療法士を目指しています。パンフなどで調べましたが、国家試験合格率の高さから、熊保大を第1志望校にしています」

◇大津高1年・女子 「助産師を目指しています。初めて大学のオープンキャンパスに来てみましたが、赤ちゃん（モデル）を抱っこして、ますます興味がわきました」

◇八代清流高3年・男子 「言語聴覚士を目指していて、このオープンキャンパスには毎年来ています。今回参加して、思い描いていた通りの仕事だとあらためて思いました」

# からだのしくみ 楽しく学んだ!

## 第2回からだのふしぎ探検 in 熊本保健科学大学

小中学生にヒトの体の仕組みや医療について学び、体験してもらう「からだのふしぎ探検 in 熊本保健科学大学」が6日（日）、開催され、約180人の親子連れでにぎわいました。

昨年に続き2回目の開催。初開催の昨年はコロナ禍のため、対象を大学近隣の小中学生としましたが、今年は熊本市全域に範囲を広げたため、事前申し込みが殺到しました。

当日は、アリーナとキャンパステラスの2会場で計20ブースを設置。17ブースが集まったアリーナ会場では、顕微鏡や各種測定器具を用いながらも遊びの要素を取り入れるなど、各学科がアイデアを凝らしたコーナーが目白押し。子どもたちは、頭と体を働かせながら楽しく体験をしていました。

一方、キャンパステラス会場では、妊娠・出産をテーマにした胎児の成長や人体の仕組みを学ぶコーナーなどが開設されました。また、「からだのふしぎ ワクワク劇場」と銘打ったコーナーでは、アカデミックスキル支援センターの学生指導員と1年生の計9グループがオリジナルの寸劇や動画を通じて、からだのしくみを分かりやすく紹介しました。一時は立ち見が出るほどの盛況で、詰めかけた子どもたちは時折笑い声をあげながら学生たちの熱演に見入っていました。

寸劇を見た小学5年生の女兒は「自分は体の仕組みについて知っている方だと思っていたけど、初めて知ったこともあった。楽しく学べてよかった」と声を弾ませていました。（学生広報スタッフ・副島一流／下田埜乃）



「からだのふしぎ ワクワク劇場」で、小中学生を前に熱演する学生たち



白衣を着て興味深げに顕微鏡をのぞく小学生

## 公正な研究活動心がけて 研究倫理・不正防止研修会



研修会で参加者に説明する川口学術研究部長（左）

研究倫理・不正防止に関する研修会が4日（金）、キャンパステラスで開催されました。川口辰哉学術研究部長・不正使用防止計画推進室長が本学の不正防止への取り組みについて説明し、「公正な研究活動行為に関する行動規範」及び「研究費取扱い手引き」を必ず一読するよう呼びかけました。また、研究不正の事例を挙げ、故意ではない注意不足であっても不正と認定されるケースも増えているため、何が不正に当たるのか研究者自身が把握しておくことが大切だと話しました。

引き続き、科研費申請説明会では、令和6年度科研費公募の変更点や申請書作成の注意点について説明がありました。（入試・広報課）

学生たちのサポートを受け、体幹トレーニングをする高校生ランナー



今回初めて導入した高速度カメラを使ってランナーの走りを撮影する学生たち



## 水上村スポーツ合宿アスリート支援

# 高校生ランナーに向け内容厳選

健康・スポーツ  
教育研究センター  
レポート

水上村との包括連携協定に基づく「スポーツ合宿アスリート支援」を7月期（24～25日）と8月期（11～12日）の2期に分けて実施し、計11校、219人の高校生ランナーを対象にフォーム分析や栄養講習などを行いました。3年目となる今回は、過去に行ってきた体組成分析やフィジカルチェックなどの測定項目の中から、特に要望が強かったアスリートリハビリとフォームチェックに絞って実施しました。

8月期には、九州学院、西脇工（兵庫）、鹿児島実業など、熊本県内外の7校、約140人が参加しました。初日は標高1000mの場所にある準高地クロスカントリー施設「水上スカイヴィレッジ」で、故障を抱えた選手を対象にしたリハビリ中のトレーニング指導や、高速度カメラを使ったフォー

ムチェックを行い、学生11人を含む本学スタッフ17人と朝日野総合病院（熊本市）の理学療法士3人が分析、指導にあたりました。

最終日は同村湯山の湯山地域交流センターに会場を移し、健康・スポーツ教育研究センターの松原誠仁副センター長が「陸上選手における脱水症状について」と題して、アイススラリ、手掌前腕冷却など、最新の予防法を紹介しました。

引き続き、本学と包括連携協定を結ぶ大手食品メーカー明治の管理栄養士、村野あずささんが演壇に立ち、栄養アドバイザーとして自身が担当するトップアスリートたちのエピソードを紹介しながら、毎食のメニューの在り方や間食の取り方などを細かく指導。スポーツにおける食の大切さを訴えました。（NL編集部）

## 銀杏アラカルト

◇杏友会歓送迎会 杏友会の歓送迎会が4日（金）、熊本ホテルキャッスルで開催され、約120人が参加しました。歓送迎会は例年4月に開催されていましたが、新型コロナウイルスの感染拡大で過去3年は中止されていました。今年は新型コロナウイルス感染症の分類が「5類」に移行してからの計画となりました。木下統晴理事長の挨拶で開会。崎元達郎前理事長など同日出席の退会者3人に花束が贈られました。また、本年度の新規入会者の自己紹介も行われました。竹屋元裕学長の乾杯の音頭で開宴すると、参加者は4年ぶりに学科・部署を越えた交流を楽しんでいました。（入試・広報課）



4年ぶりの開催となった  
杏友会の歓送迎会



◆情報セキュリティの基礎学ぶ 情報セキュリティ研修会が18日（金）、1300L講義室で開かれ、本学の情報セキュリティアドバイザーで桜十字病院参与の菊池健氏＝写真＝が「情報セキュリティ基礎」と題して講演を行いました。菊池氏は、情報の格付け、情報セキュリティ・インシデント事例などについて説明。フィッシングによる個人情報等の詐取やネット上の誹謗・中傷・デマなどが個人に脅威を与えるとした上で、「（セキュリティの脅威は）いつ起きてもおかしくない。」と注意を呼びかけました。特に、パスワードの使いまわしやメールアドレスの入力誤りなどについては、「基本的な対策として、システム毎に推測困難なパスワードと2要素認証を運用してほしい」と訴えました。（入試・広報課）

週間行事予定（8月26日～9月1日）	
8 / 27（日）	チャレンジ熊保大！推薦入試対策講座
8 / 28（月）、30（水）	熊本西高校アカデミックインターンシップ（NAIS）
8 / 29（火）13:00～	FDセミナー（1501講義室）